

ちば男女共同参画基本計画
新ハーモニープラン

後期計画
平成23年度～27年度



CHIBA

千葉市

目 次

計画の見直しにあたって	1
1 計画の見直しの趣旨	1
2 計画の見直しの方向性	1
3 千葉市の現状と課題	2
 第1章 計画の基本的な考え方	4
1 計画の目的及び基本理念	4
2 計画の基本目標	4
3 計画の位置づけと期間	5
4 策定の視点	5
5 計画の進行管理	6
新ハーモニープランにおける指標一覧	7
6 重点的に実施する施策	9
7 男女共同参画社会形成のための活動拠点	10
8 計画の概念図	11
9 計画の推進体制	13
 第2章 各施策の内容	15
基本目標1 男女平等と人権の尊重	15
基本目標2 政策決定の過程における男女共同参画の推進	24
基本目標3 教育の分野における男女共同参画の推進	31
基本目標4 雇用の分野における男女共同参画の推進	38
基本目標5 自営の商工業や農林水産業の分野における男女共同参画の推進	49
基本目標6 家庭生活と職場や地域の活動等を円滑に行えるような支援	54
基本目標7 男女共同参画を推進する民間団体との連携と支援	67
基本目標8 生涯にわたる心身の健康と性に関する理解への支援	72
 参考資料	85
千葉市の男女共同参画施策の動向	85
千葉市男女共同参画ハーモニー条例	86
男女共同参画社会基本法	90
 索引	96

計画の見直しにあたって

1 計画の見直しの趣旨

男女が互いの人権を尊重し合い、個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会の形成は、平成 11 年に施行された「男女共同参画社会基本法」前文において、少子高齢化の進展や国内経済活動の成熟化等、わが国の社会経済情勢の急速な変化に対応していくための緊要な課題と位置づけられています。

その後、千葉市では、男女共同参画に関する取組みを推進する際の法的根拠として、平成 15 年 4 月に「千葉市男女共同参画ハーモニー条例」（以下「ハーモニー条例」という。）を施行し、この条例に基づき平成 17 年度から 27 年度の 11 年間を計画期間とした「ちば男女共同参画基本計画・新ハーモニープラン」（以下「新ハーモニープラン」という。）を平成 17 年 3 月に策定し、男女共同参画についての施策を総合的かつ計画的に推進してまいりました。

しかし、平成 21 年に実施した市民意識調査の結果をみると、「男は仕事、女は家庭」といった性別による固定的役割分担意識は依然残っており、男女の人権が尊重され、性別にかかわらず個性や能力が十分に発揮されるためには、多くの課題が残されています。

また、少子高齢化の進展による人口減少社会の到来、グローバル化する社会・経済、非正規労働者の増加と貧困・格差の拡大などさまざまな社会経済環境の変化がみられ、男女共同参画をめぐる課題も多様化しています。

このような社会情勢のなか、国においては、「男女雇用機会均等法」、「配偶者からの暴力防止及び被害者の保護に関する法律（DV 防止法）」、「育児・介護休業法」の改正などをはじめ、さまざまな制度が整備されています。

また、平成 22 年 12 月には、「女性の活躍による経済社会の活性化」、「男性、子どもにとっての男女共同参画の推進」、「地域における身近な男女共同参画の推進」などを重点分野とした、第 3 次男女共同参画基本計画が策定されました。

このような国の動向及び市民意識調査の結果等を踏まえつつ、新たな課題に対応し、後期に向けてより効果的に施策を展開するために、計画の見直しを行うものです。

2 計画の見直しの方向性

- (1) ハーモニー条例に基づく 8 つの基本目標は、変更しないこととします。
- (2) 計画後期に向けて重点的に実施する施策について、計画の推進状況や市民意識調査の結果を踏まえたうえで見直します。
- (3) 基本目標ごとに設定する指標について、各指標項目の推進状況に応じて見直しを行い、計画後期に向けた適切な指標を設定します。
- (4) 具体的事業について、市の組織改正後の所管、事業の現状を確認し整理するとともに、新たに取り組む事業を盛り込みます。

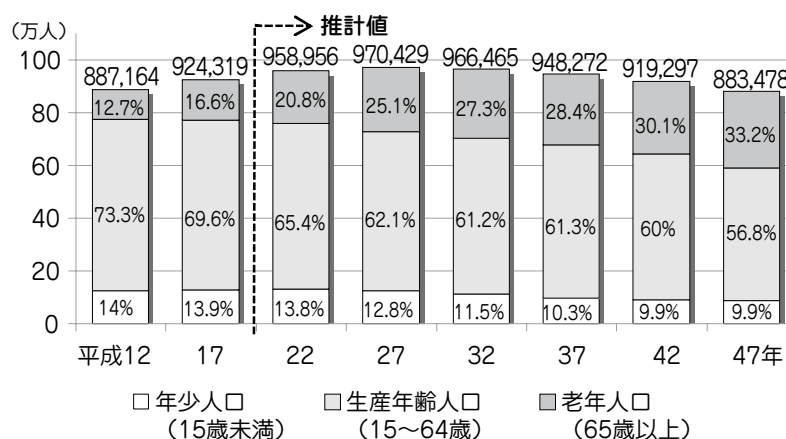
3 千葉市の現状と課題

(1) 少子高齢社会の進展、労働力人口の減少

千葉市の人口は当面は人口増加が続きますが、その後減少に転じると見込まれており、また、団塊世代の高齢化や平均寿命の伸びにより、少子高齢化が急速に進んでいます。

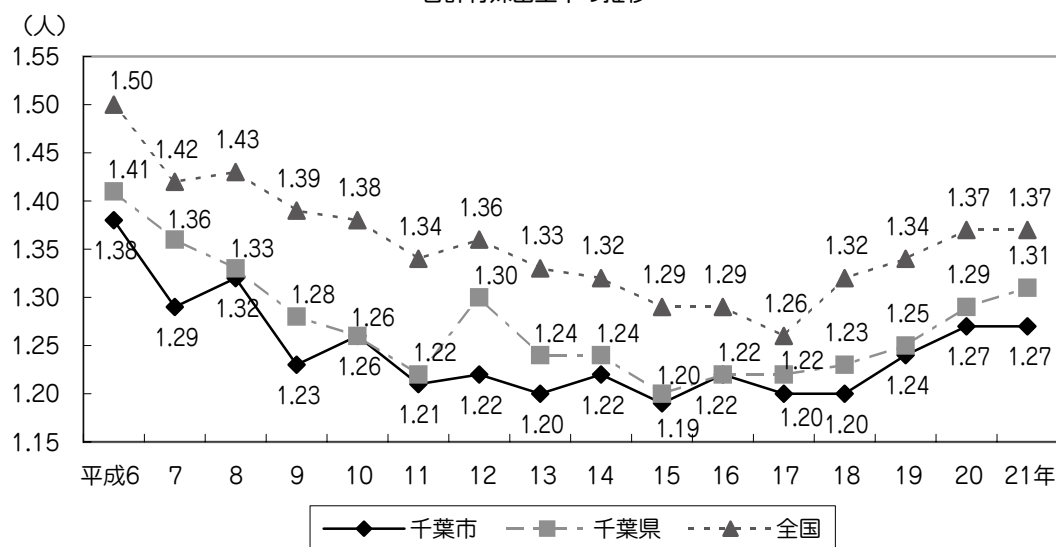
千葉市の合計特殊出生率(※)は過去最低であった平成15年以降、わずかながら増加傾向にあるものの、全国や千葉県と比べても低い水準にあります。このような少子高齢化の進展は、労働力人口の減少による経済活力の低下、税や社会保障の負担増加といった、さまざまな影響を及ぼすと予想されています。

人口と年齢3区分別人口構成の見通し(千葉市)



資料) 総務省「国勢調査報告」(~平成17年)、
千葉市「千葉市人口動態等基礎調査報告書」(平成22年~)

合計特殊出生率の推移



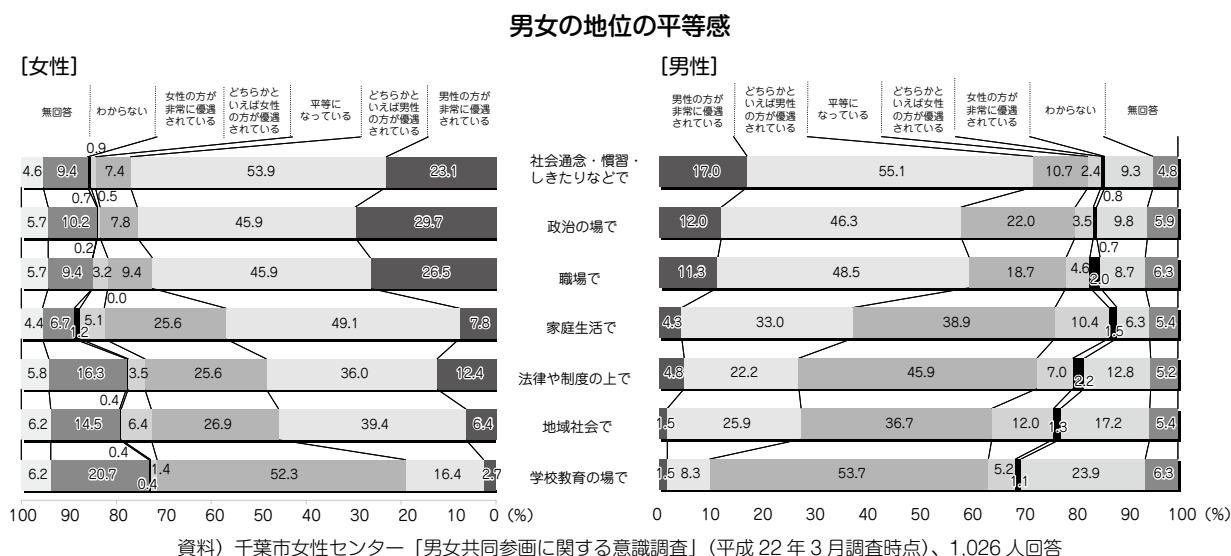
資料) 千葉市「千葉市保健統計書」(平成20年統計)

※合計特殊出生率：女性の年齢別出生率を合計した値で、一人の女性がその年次の年齢別出生率で生むと仮定した場合の一生の間に生む平均子ども数を表しています。

(2) 千葉市における男女共同参画意識の現状

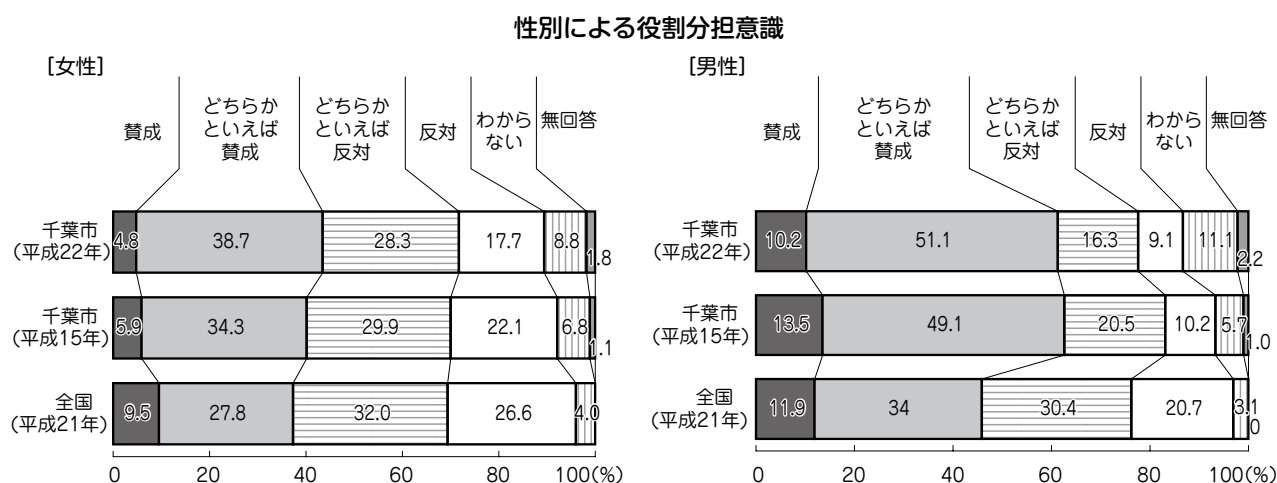
①男女の地位の平等感

千葉市における男女の地位の平等感をみると、「学校教育の場」においては平等になっていると考える人が5割程度ですが、「社会通念や慣習、しきたりなど」や「政治の場」などの分野においては、男性が優遇されていると考える人が、男女ともに多くなっており、今後も引き続き、男女共同参画社会の形成に向けた取り組みが必要なことを示しています。



②性別による役割分担意識

「男性は仕事、女性は家事・育児」という考えに対する賛否をみると、女性と比べて男性の方が、性別による役割分担意識を持つ人が多くみられます。また、平成21年に実施した全国調査と比較すると、性別役割分担に賛成する人が多い結果となっています。



資料) 千葉市女性センター「男女共同参画に関する意識調査」(平成22年3月調査時点)、1,026人回答。

千葉市(平成15年)調査は「男女共同参画社会に関する調査」(平成15年11月調査時点)、1,596人回答。

全国(平成21年)調査は、内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(平成21年10月調査時点)、3,240人回答。

※千葉市(平成15年)調査は、「男性は仕事、女性は家事・育児」という考えに対する賛否を質問したもの。